

研究発表の記録

①都城地区小体連

主体的に運動に親しむ資質や能力の基礎を育てる体育学習の在り方
 ～主体的・対話的で深い学びの視点に立った器械・器具を使っての運動の実践を通して～

発表者 都城市菓子野小学校 川原 竜馬
 司会・進行 串間市立大束小学校 中村 健太

発 言 者	内 容
大宮小 緒方	<p>児童が「体力の高まり」を感じる部分での具体的な理由づけについて</p> <p>→児童の感想や自由記述の中で「スムーズに動けるようになった」などの実感を伴った記述で「体力の高まり」を見ている。今後、研究の中で具体的なものも検討していく必要がある。</p>
美郷北学園 松崎 綾小 雨崎	<p>教員の「体づくり運動」への意識の高まりについて</p> <p>体育主任以外の職員への伝達について</p> <p>→「体づくり運動」の授業への意識は高まった。</p> <p>→各校で研修の時間を設けてもらうなど、体育主任以外への広がり方は検討していく必要がある。また、体育専科を中心に広めていきたいとも思っている。また、研究部の中に情報発信班を編成しており、文書の作成を行い、保護者への配付している。</p>
高鍋西小 福田	<p>「条件を変化させた動き」の選定基準や児童の関わりについて</p> <p>→回数の変化や用具の変化など、動きに合わせて様々なものを変えることができるように選定している。また、変化させたいものは、児童が動きを考えて選ぶことができるようにしている。</p>
生目小 有島	<p>4つの「楽しさ」の関係について</p> <p>→「楽しさ」の定義を考えるとスタートなので、順列でなく、並列と考えている。</p>
大宮小 緒方	<p>回数の変化の提示の児童への効果について</p> <p>→回数が見られることは、児童にとって分かりやすいものとなっている。回数が減る児童などもおり、児童も回数にこだわるのではなく、体の感覚を感じている児童が多かった。</p>
倉岡小 塩塚	<p>単元を通してのつながり、積み重ねの工夫について</p> <p>→1 単元時間だけだと高まらない部分もあるので、前時とのつながりを考えて動きを考えたりしている。</p>

住吉小 東	<p>条件の広がり種類選定の基準について</p> <p>→例えば道具の選択がしやすいなど児童が選択しやすいものを選んでいる。また、条件変化の注意点を掲示するなどの工夫を行っている。</p>
南方小 田爪	<p>本年度の研究について</p> <p>→中学年の実践の研究を行い、条件変化の用具操作の部分を見ているところである。また、「基になる動き」に戻った時の児童の思考の変化なども見ているところである。</p>